

令和2年度 第2回築上町総合教育会議 会議録

1 日 時 令和2年11月26日(木) 午後3時00分開会

2 場 所 チアフルつき多目的ホール

3 出席者

(構成員) 築上町長 新川 久三
教育委員会
委員 折本 美佐子
委員 茅田 香
教育長 久保 ひろみ

(構成員以外の出席者)

元島総務課長、野正学校教育課長、古市生涯学習課長
岡部学校教育係長、出口学校管理係長
宮内指導主事、小林指導主事

(傍聴者) 2名

午後3時00分開会

※読みやすくするため、発言の趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

4 会議内容

(1) 開会

○学校教育課長(野正 修司君) みなさん、こんにちは。定刻になりましたので令和2年度第2回築上町総合教育会議を開会します。なお、本日は中村委員と麥田委員が欠席となっております。

(2) 町長あいさつ

○町長(新川 久三君) 新型コロナウイルス感染症ということで、本当に皆さんから心配をおかけしてい

るところです。

学校という形の中で、集団的感染防止という形で学校が臨時休校に至って、それからまたいろんな行事も一応延期、それから規模縮小となっておりますが、おかげでもって学校関係には全く感染者もなかったというようなことです。町内では4名の方が陽性という形になっておりますけど、皆さん全て軽症というようなことでなっているようでございます。

そういう形の中で今日は、第2回目の総合教育会議というようなことで、お集まりいただきありがとうございます。

学校も、一応子供の数も段々少なくなってきたというように、これもどうかかなるのかなということで、本当はそういうのが一番いいんですけど。少子化という非常に国全体がやっぱり全て全国的にそういう状況になる。特に東京のほうも、東京真ん中、千代田区あたりがもう本当に子供の過疎化というか、もう本当に子供たち少なくなってきたということで、今郊外のほうが増えている。郊外がだんだん高齢化をしてきている。団塊の世代が東京に移り住んでいる。それでも一応高齢者社会になりつつあるんだらうと。日本全体がそういう形の中で、少し変化をとるか変えていくべきものは変えていったほうがいいんじゃないかな、そのように考えているところでございましてですね。

それから、先般、私が教育創生会議というものに参加をずっとさせていただいて、皆さんと御協議しながらコミュニティスクール制度、これも教育委員会全体で取り組んでいただいて、全校で対応していただいておりますというように、地域で子育てを一緒に、教育も一緒にやっというふうな取組の中でやっていただいております。

今回、先般参加をしましたが、先般の分については、子供たちの目線で小学校クラブで点検をやってもらったらどうだろうかというふうな一つ、そういう提案があったんです。これもいいことだなとして、子供たちで点検をやって、まとめをして町長のほうに出したんですね。全てが出るかどうか分かりませんが、一応これを参加していこうというふうな教育創生会議の中の議論の中で一応議論したところでございますし、なかなかいいことだなというふうなことで、先般教育長のほうには、どうだろうかねという相談をしているところでございます。今回もその議題の中にぜひお願いしたいと考えているところでございます。

そういうことで、後は事務局からの報告等がございしますので、あとよろしく願いいたします。

(3) 報告事項

○学校教育の取組について

○学校教育課長（野正 修司君） ありがとうございます。

続いて、3番の報告事項です。

1番目に学校教育の取組についてということで、私のほうから若干お話をさせていただきます。

まず、学校教育課のほうでは今、八津田小学校の建て替えの工事を行っております。その関係を少しお話したいと思います。

まず、プールの解体ということで、9月に契約をいたしまして、10月の末で一応プールの解体の工事のほうは終了しております。

それから、次に、進入路ですね。新しく進入路を移動させて造ります。その関係で10月に契約をいたしまして、来月の12月25日までの工期で進入路の工事をするようになっております。

それから、一番大きな校舎の建設工事でございます。こちらのほうは10月の末でしたか、臨時議会のほうで議決も頂きまして、溝江建設株式会社のほうが落札をいたしまして、こちらのほうが令和4年1月末までの工期で新校舎の建設にこれから取りかかりますので、いよいよ本格的な建て替えということに入っております。

それから、次に、学校教育課の大きな事業としましては、ギガスクールに関する関係でございます。校舎内の無線の環境の整備ということで、高速通信に耐え得る配線の変更工事が、年内に一応終わる予定になっております。それで1人1台のタブレット等も3月までには導入する予定になっておりますので、その辺の環境も整えつつありますので、来年度からは本格的に運用ができるものと思っております。

先ほど言いましたタブレットの関係でございますが、昨日、臨時議会がございまして、そちらの契約のほうも議会の承認をもらったところでありますので、正式契約して、3月1日までの納期で、来年3月1日納期で1人1台のタブレットを導入することとなっておりますので、先ほど言いましたが4月以降に本格的な運用になろうかと思っておりますので、一応お知らせしておきます。

あと今現在、新年度、来年度の予算要求の段階に来ておりますので、今各学校の要望を聞き取っている段階でございます。それを集約してまた財政課、副町長の査定を受けて新年度の予算要求という形になりますので、今その作業を行っているところでございます。

学校教育のほうは簡単ですが、現在こういう状況です。続いて古市課長。

○社会教育の取組について

○生涯学習課長（古市 照雄君） 続いて、生涯学習課の取組状況について報告をさせていただきます。

主に生涯学習課につきましては、今回、今年度コロナの影響がありまして施設等々、年度当初から閉鎖をしたという状況があります。コロナ禍において、いろいろ職員のほうがどういった形で今後できるかという課題を設けて、各職員のほうがコロナ終了、コロナ禍において何ができる。そして、その結果を経て今生涯学習課のほうでは、できるところをやっつけよう、できるものは何かということで、できないものを探すよりできるものを探していこうということで、いろんな事業を若干ですけど展開をしております。

主な工事につきましても、今回LEDの改修工事を築城体育館、海洋センター体育館のほうで現在やっているところです。こちらにつきましても、2021年に国のほうでも水銀の製造停止ということになっておりますので、それに先駆けて体育館のLED、そしてこのLEDを行うことによって、消費電力の低下するであろうということで、また今後グラウンド等々の改修工事の計画も必要かと考えております。

先ほど出ました、できるところをやっていく事業ということで、様々な取組を少しずつすけども展開をしています。

まず、ここ最近の事業で言いますと、障害者スポーツの取組です。こちらについては椎田中学校、そして築城小学校で、障害者スポーツの取組を学校のほうで行っております。

12月以降の今後の取組につきましては、延塚奉行の顕彰・供養祭、そして武道大会等もできるところをやるという形で開催をする予定にしております。こちらにつきましても、全国から多数の参加者が来る予定にはなっておりますけども、来れないという状況もありますので、今回初の試みとしてリモートでのライブ中継をやる予定にしております。

そして、年を明けまして1月の成人式につきましても、こちらも開催をする予定で今計画をしているところです。成人者につきましては、参加できますけども、保護者等については、施設の状況等も考えまして、今回おいでいただく保護者、そして来賓の方についても遠慮いただきまして、ただし、リモートでのライブ中継のほうも考えております。

生涯学習課としては、今できるところをやるということで、学校教育との連携も今年は力を入れているところでございます。学校教育のほうで子供たちの支援を生涯学習課として何ができるかということで、様々な取組、若干ですけども、取組を開始しております。

もう一点、オリパラ事業の関係ですけども、オリパラ、あと聖火リレーにつきましては、今年度中止になっております。来年5月12日に開催をするということで決まっておりますので、こちらに向けて今事務局のほう、国のほう、県のほうからもいろいろ書類が来ておりまして、そちらの対応、そして今後の対応をどうするかということで、事務局の中でも協議をしているところです。

こちらにつきましても、今同様、今までの取組同様できるところはやっていくというところでやっていく方法で今取組をしているところです。

最後の一点ですけど、読書通帳の関係ですけども、今回築上町が読書のシステムを整理しております。これに伴いまして読書通帳を作成しておりまして、先日、各学校のほうに読書通帳を児童生徒のほうには配布のほう終了しております。こちらのほうで学校のほうが今回、新しく読書通帳を活用して授業の一環で図書館を利用する。図書館というのを初めて行く子供もいたようですし、今後また読書の関係については、生涯学習課としても身近で本を読む環境づくりも必要か

と考えておりますので、そちらのほうも取組をやっていきたいと考えております。

生涯学習課は以上です。

○学校教育課長（野正 修司君） ありがとうございます。

ただいまの学校教育及び社会教育の取組について、御質問等あればお願いいたします。お願いします。

○委員（折本 美佐子君） 野正課長のお話について確認というか質問なんですが、G I G Aスクールについて、校舎内の無線工事が行われているということですね。

○学校教育課長（野正 修司君） 配線の工事ですね。

○委員（折本 美佐子君） 配線、配線でしたか。

○学校教育課長（野正 修司君） それで校舎内のW i — F i といいますか校舎内で、使えるようにすることですね。

○委員（折本 美佐子君） これって、1人1台は学校のみで使うということですよ。

○学校教育課長（野正 修司君） 基本的には学校なんですけども、4月のように一斉休業とか、もし、もしなれば、そのときには貸出しということも考えなくちゃいけないと思っています。

○委員（折本 美佐子君） それは町で話合って決めることなんですか。

○学校教育課長（野正 修司君） それはそれで大丈夫です。

○委員（折本 美佐子君） 大丈夫です。あ、分かりました。

○学校教育課長（野正 修司君） ほかにございましたら、お願いします。はい。

○町長（新川 久三君） 小中連携という形でね、築城中学校、教室当然しとるよね。コロナがあって、今年は小学生、中学校に行って教室入ろうと、これは行ってはいないのかな。

○教育長（久保ひろみ君） 去年も実際やりましたし、そして今年も実は早い時期から入れる予定だったんですけど、ちょっとコロナで、でも1月にはまたあそこに入れて、小学校6年生を築城、上城井、下城井を入れてするという。

○町長（新川 久三君） これはいいことで、ぜひ実行して、そんな教室を増設しているから。

○学校教育課長（野正 修司君） ほかにございましたら、お願いします。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○学校教育課長（野正 修司君） それでは、続いて、4番、その他ということで意見交換でございます。ここからは町長に議長になっていただきまして、築上町教育行政、その他について議論を、意見交換を行いたいと思いますので、町長お願いします。

○町長（新川 久三君） これは議題は、今後の町立小中学校について、これがテーマですね。

○学校教育課長（野正 修司君） そうですね、一応資料もありますので、はい。

○町長（新川 久三君） じゃ、一応それに基づいて、新しい時代に向けた築上町小中学校の在り

方についてということで、事務局が案をつくっておるものでございますけれども、これに基づいてちょっと事務局のほうから説明をしてもらって、教育長から説明を行って、そしてあと議論したいと思います。

○教育長（久保 ひろみ君） すいません、私のほうで説明させていただきますが、座って説明させていただきます。

まず、これ案と書いています。新しい時代に向けた築上町小中学校の在り方なんですけど、これはどういう経緯でこれができ上がったかということをお話をしたいと思います。

毎回、教育委員会の定例会議の後で、やはり築上町の小中学校、委員さんたち学校訪問していただいたり、いろんな研究発表会参加してもらったりする中で、いろんな意見を出してもらって話し合いを進めてまいりました。

その中でこれ町長からもありましたが、少子化というのは本町だけの問題ではないわけですね、全国的にそういう傾向にある。本町ももちろんそういう少子化の影響が出てきているということも踏まえながら、築上町の小中学校、学校の形として子供たちが学びを進めていくにはどういう形がいいのかということ、ずっとこの教育委員会で、毎回、毎回、協議を重ねてきました。それはいつも話し合いで終わってしまっていたので、少し今まで我々が話し合いをしてきたことをちょっと紙面にまとめてみようではないかというところで、私のほうで皆さんの御意見をまとめさせていただきました。もう読んでいただければあれなんですけど、ちょっと概要だけお話しいたします。

少子減少の社会ということで、現在本町では小学校8校、中学校2校があって、本当にどの学校も特色ある学校教育が展開されています。特にコミュニティスクールを取り組んでからは、やっぱりまた地域の方との一体となった教育ということで、小さい学校は小さい学校、大きい学校は大きい学校の特色を出した教育活動が行われております。

ただ、複式学級等も今後ありますし、そのうち4校は今後完全複式になる見込みというところもデータの中から読み取ることができるようになりました。

その中で私たちが統廃合とかそういうことを議論するんじゃなくて、この町の子供たちを健やかに育てるためには、どんな形で学びをつくっていったらいいのかということで、視点で話していくことになりました。

それで、やっぱり新しい時代、私たちは10年後、20年後、予測ができないような社会がやってくる、そのときにやっぱり子供たちが主体的に物事を考えて、自分の頭で判断して行動できる、そんな子供たちを育てていかないといけない。

そのためには、今ある築上町の教育の財産を生かしながら、小中が連携しながら一貫教育というのが平成28年から法的にも制度化されておりますので、そういうものをして考えながら、新

しい学校の在り方というのを皆さんの意見を頂きながらまとめてきたものが、この新しい時代に向けた築上町小中学校の在り方です。

特にこの中身を協議してもらおうというよりは、これをあくまで教育委員会の私どもが出したたたき台ということで、今後また町のほうで変更等が始まる時のたたき台の参考資料として使っていただければということで、まとめたところでございます。

大きな学校の在り方としては、小中一貫で義務教育9年間を継続した学び、先ほど町長もおっしゃられましたけど、築城中学校は設備もいいですし、教室も多く造っていただいております。そういうところに6年生、5年生が入って勉強することに、それだけでも小中連携が進むわけなんです。そういうところを町として大きく仕組みをつくっていくことが大事じゃないかなというふうなことで、提案をさせてもらっています。

委員さんの中からはいろんな意見が出て、小中一貫校、施設が一緒のところもあるだろうし、分かれたところもあるよねとか、小規模の特認校として残すところは必要やないですかとか、校区を自由選択制にしてはどうでしょうかとか、やはりそのためにはスクールバスとか安全な、安心安全な登下校をしていかないといけないねというようなところからイメージ図、これはあくまでイメージ図なんですけれども、椎田中学校のバージョン。築城中学校のバージョンというようなことも想定しながら考えたところです。

あくまで社会の変化に対応できる力を育む学校教育をつくっていかねばならないということで、個別にはICTの活用とかいろいろなことも入れましたけど、細かいところよりも今後どうしたらいいか考える、学んでいく必要があるんじゃないかというのが、教育委員会としての考えでございますので、もう本当に今日は議員さん来られていますので、学校見た様子とか率直なところを意見を出しながら、これはあくまでたたき台というか、そういう形でつくっておりますので、町長もこれを見ていただいて、これは現実的ではないとか、これはちょっとというものあるかと思っておりますので、これは一つの第一歩ということで、こちらのほうから出させていただいておりますので、これを中心にまた御意見を頂ければ、今後も教育委員会のほうでまた協議を進めていけるのではないかなと思って、ちょっと提案をさせてもらったところです。

○町長（新川 久三君） 今、教育長のほうから在り方についての説明がありましたが、何か質問があればしてもらって。私が最後に発言したいと思います。

○教育長（久保ひろみ君） 加えて、委員さんたちがこれをつくるまでにいろんな御意見を出していただいておりますので。

○町長（新川 久三君） これ委員さんからもらっているんじゃない。

○教育長（久保ひろみ君） はい。ちょっとまた委員さんたちのほうから。

○町長（新川 久三君） ちょっと一言ずつ、お願いしたいと思います。

○委員（折本 美佐子君） その前にどうしても今日、都合がつかずに本当は、中村委員はちょっと病気ということで、麥田委員はどうしても都合がつかずにとても残念だというふうにおっしゃっていました。代わりに私が意見させていただきます。

私は自分の子育てをしたときに、築上町にお世話になったんですね。もう下の子が26になりまして、そのときから、うちの子は下城井でお世話になりました。そのときでも人数はもう既に少なかったんですが、あの時代でも私は親として統合というか、してほしいなと思っていたんですね。

なぜかと言うと、幼稚園は行橋のほうに行っていたんで結構マンモスなところでやって、もまれてきたところが、わっと下城井に学校移したときに、学校になったときに、何か学べる環境というのかな、もまれて切磋琢磨して伸び合うというところが、ぐっと失われた感じを保護者として受けたんですね。でも、やっぱり慣れてしまうと、少人数は少人数のよさをもちろん分かったし、大事に築上町に育ててもらったことはすごく感謝しています。でも、あの当時でも、やっぱりもっと切磋琢磨できる環境があったほうが良いと私は思っていました。

それから、月日が流れ、そういった御縁があって今教育委員させていただいているんですけど、あれから比べても児童がすごく減ってしまっていて、私教育委員になって3年目なんですけど、学校の様子を3年目すごく思うところがありまして、小規模校、少人数のよさは確かにあるんだけど、逆にチャンスを失っているところもあると感じました。

築上町は、ほかの町、市や町に比べるとすごく手厚いということをよく耳にしますし、私も現場に行って分かることなんですけれども。逆に複式をなるべく解消するために、先生に来てもらって、そして今日、偶然、上城井小学校に学校訪問行ったんですけど、マンツーマンだったんですよ。複式解消に指定の授業だったので、校舎で見せてもらいましたが、それはいい面もあるけれども、デメリットもあるというのか何か平等ではないというのを、町の大人数の中でもまれて授業やっている人と、マンツーマンで受けれる人と、何かちょっとこれは平等ではないというのは少し思いました。

それとあと発言とか小規模校も行ったんですけども、たまたま今年だと思うんですが、学校のほうからもやっぱり対話面が苦手であるということ、なぜか今年をよく耳にしました。

そういう授業見る中でも、少人数だとちっちゃい、クラスの中で3人とかの先生だと、ちっちゃい声でも事が終わっちゃうんですね。そうすると、子供も小さい声で発言したら先生もそれで分かるし、自己アピールの機会というのがすごく少ないなというのを今年は特に感じました。

だから、何か少人数のよさを私たち分かっているけれども、これを続けていくことはチャンスとか子供たちの可能性、自己アピールしていく中で、要はそういう可能性を探るのに、少人数というのはもしかしてチャンスを奪っているかもしれないというのを今年は特に感じたところです。

なので、私は、個人的には昔と変わらず統合していったというふうな思いが、今も強くよくあります。

それとあと、やっぱりいつも教育会議では話題になるんですけども、先生方の指導力というのを切磋琢磨し、今年はすごく力を入れています。先生同士の研究発表とか、自分の授業を振り返るとか、そういうこともしているんですけども。なんせ、その力を発揮するためにも、もっとぐっと築上町ぐっと学校統合して、ぎゅっとやったほうが私は効率もいいような気がしました。子供たちのためにも統合してほしい、するべきと思っております。

今は一応ここまでです。

○町長（新川 久三君） はい。他からは何か。

○委員（茅田 香君） そうですね、私の子供たち、葛城保育園、葛城小学校にお世話になって、小規模校で、保護者側としてはやはり葛城小学校のちっちゃいところから椎田中学校に、あともう行きとうない、すごい保護者の方、皆さん御心配で、大きいところへ行くとどうなるかと思っていたんですけど、子供は子供なりに中学校では、特にまた椎田のお友達とかいろいろできて、意外と子供たちは子供たちなりになじんでいっているというのがあって、小さいところは3クラスで、かなりすごい子供たちを、みんなで地域ぐるみで子供たちを育てているという感じの保護者同士の仲がいいというか、それで中学校行ったときに心配なところもあったんですが。こうやって葛城小学校も50人という、どこも人数が少なくなっている中で、こういう提案というのはすごいすばらしいなと思います。

今、小中一貫教育、築上町は高校も、築上西高校もあって、すばらしい築上町だと思うんですよ。それで小中一貫で、また高校につながっていけば大変いいかなという（ ）実績が少ないなという印象がありましたので、そのような経緯があるという。また、将来（ ）小中一貫という提案すばらしいなと思っております。

葛城小学校に通っていたときは、あまり葛城小と小原と西角田が合体するんじゃないかとか、保護者会の中でいろんな不安がよぎって、あ、どうなるんやろうかね、どうなるんやろうかねという感じで保護者の中では話が出たりもしました。

今、交流がだいしょ、小規模校は小規模校で交流があっているんで、西角田の友達がいたりとかそういう交流があるので、割と、いいかなと思います。お願いします。

○町長（新川 久三君） 茅田さんみえていないです。

○教育長（久保 ひろみ君） そうです。今日あれです、金唐のワークショップで、すみません。

○町長（新川 久三君） 日にちが取れないと。

○教育長（久保 ひろみ君） 博多に行かれておるので、大事なことで気になっていましたが。

○町長（新川 久三君） 2人の意見として聞きましたけどね。基本的にはすばらしい一つ案だな

と思うんですけれども、これがやはり地域にどのような形で、この説明ができるのかという形で、地域の皆さんが納得してもらえれば、これはこれでちゃんと実行したほうがいいんじゃないかなと私は思いますけれどね。

昨日は葛城小学校で人権講演会があつて、私ずっと最初から最後まで昨日は、なかなかすばらしい、子供たちも熱心に聞いてあつたのが、やっぱり講演が上手だった。もうあんまり人権という形じゃなくて、アメリカと日本の違いとか英語と日本語の違い、そして和製英語、僕ら和製英語なんか舶来英語なんか分からないんですね、実際はね。そうしたら、アメリカに行って和製英語は通じないよとか、そういういろんなコメントで。

違いがいろいろあるけれども、やっぱり人もいろんな違いがある。最後にまとめたのが、それを理解して、お互いが仲よくしましょうということがあつたもの、昨日の講演だったんです。みんな真剣に聞いて、50何人かね、葛城。

○教育長（久保 ひろみ君） 葛城は45人。

○町長（新川 久三君） 45人か、45人やったね。45人の全校生徒で、本当に1年生から6年生まで本当によく聞いていたけれども。今日は僕が椎田小学校に歴史の勉強ということで、中津街道の話をしてくださいということで中津街道のお話ししたんですけれど。

築上町で一応代表される方々で皆さん覚えていただきたいということで、本庄の大楠を植えた景行天皇さんの話と、それから次が菅原道真公が椎田の海岸に漂着して（ ）いただいたよという話をしたんですけれど。3番目が、宇都宮氏館跡の話です。それから4番目が延塚卯右衛門さんの話で、これは絶対彼がいなかったら僕ら、皆さん生きていなかった、子孫としていなかったんじゃないかとそんな話をして。それから5番目がもう1人、征矢野半弥さんという赤幡に住んでいた人がおるんだけど、この人は八幡製鉄所の誘致に奮闘した方で、日日新聞ということで現在の西日本新聞の創始者であると。この5人は皆さん、ちゃんと頭に入れちよってほしいねという話をして。

あと中津街道で宿場の話をしたり、それから特に築上町での主なポイント、ポイントの。特に伸びた分野の脈絡、こういう話いろいろ全部して、商店街の集まりとか、子供やっぱり聞いてくれ、ちょっと難しいか、新聞記者もちょっと難しかったということだけど、でも朝に比べればと、それでも聞いていただいたということで。

その中で非常に生徒の数が少なくなって、来年、今まで2組でやるのが1組になるという話を何年生か、3組あるということで。それから保護者の負担も激しい、実際ね。だから、そういう形を取れば、八津田小学校は建て替えているけれども、次、椎田中学校を建て替える話だったから、基本はここにもあるような形で皆さんから了解取れば、それもちよっとコンセンサスを取りながら話をして、地域の皆さん、それから学校運営委員会とかこういう話等々、それから自治

会の皆さんからいろんな話を聞きながら、小中一貫の話もあるし、そのところで皆さんがいいでしょうという話になれば。

それがなければ、ちょっと今までの方針というのは、（ ）財政が弱い、建て替えるとき。あとは模様替えをしようという考え方が違うかしらんけれども、もしよければ、椎田中学校の中にこの案にあるようなね、いろいろ考え方もいいかなという方針もあるので、これは地域の皆さんで納得していただければ、こういう方向でやってもいいかなと思っておる。

特にやっぱり地域の皆さんがオーケー、それがやっぱり今まで僕も一応こういうときは、10人未満になるまでは、学校は一切扱いませんということで、来年小原が10人未満になる予定ですので、小原地区の皆さんには10人未満になったんでという話を切り出しますということは、もう20年前から話をずっとやってきたんで、10人下るまで一切話をしませんということにしたんで、この一応案の中であるような話をしながら、どうしましょうかねという、まず小原のほうからやっていかないかなかなと思っておる。あとは西角田と葛城の皆さん、どうするかという話もやっていかなきゃいかん。

そして椎田地区の皆さんは、小中一貫について必要というか。八津田は今建て替えているからそのままという考え方でいったらいいかなという、なかなかいい必要案を、協議をつくってくれておるし、そういう方向性で皆さん議論を今から……

○教育長（久保ひろみ君） 議論はしていただきたい。やっぱり小原小は、今は10人下っていませんからね。しかし私は常に令和3年度からその部分を協議するために教育委員会として、今までずっと教育委員会の委員さんたちと協議してきたことを一つの形としてまとめてきており、これから深めていただけたらなというところで作成していますので、どうぞその辺をご理解下さい。

○町長（新川 久三君） 後は地域の皆さんとどのような形で話をしていくのかというのも大事と思うんです。特に学校運営委員会、それから自治会の皆さんの代表者に皆が話して、そういうふうに思うですね。一応聞きながら、まとめていくちゅう方向がいいんじゃないかなと思っておりますので。

本当に少子化という形で、すごいですね、これもう。平成18年、合併したときになっているんですね。

○教育長（久保 ひろみ君） 3ページ目です。

○町長（新川 久三君） 3ページ目か。ねえ。すごいですね。小学校だけで1,000人超えているんですね。それが844人ですけどね、令和2年度にね。ということで、相当やっぱり人口の変動は激しいんだけど、人口は合併したときが2万1,600だったんですね、合併したときは。今1万7,000になったということで4,000人減っていると。それに比べれば、子供の減りは1,000から800、だから200人ぐらいの減りなんですね。人口が減るよりは率は

多分いいんだろうと、少ない、減りの率は。しかし減っていることは間違いない。

とにかく子供が生まれないというのが非常に、結婚しないと、たくさんおるし。今そのところがどういうふうな影響になるかということで、できるだけ子育て支援という。この前、チャレンド・ファーストということで、県下の女性の委員の集まりがあって、そこで田辺市長が講演をしておったけれども、築上町も負けていないと思う、実際。子供の命を守るというふうな考え方の中で、いろんな施策をやっていっておるし、それはそれで充実した子供の子育て環境を育てていくというふうなことで、再度私は当然考えてもいいんじゃないかと思うしね。そのこのとこで、総合計画の中で子供の命を守るというふうな、これを根底におきながら、行政のシステムの取組であるんで、それが教育が一番大事だと考えておりますんで、そこは皆さんの意見を聞きながらやっていこうと思っています。

○委員（折本 美佐子君） 減多に機会がないので、思っていることを全部あれなんですけど。

1回目の会議のときに、ちらっと私が発言したと思うんですが、やっぱりコロナで仕事の形態が変わってきて、都会の東京とか大阪の人が田舎に、田舎でも仕事がリモートできるということなんで、もしこの案が、案ですけれども、小中一貫校というのが目指せて実現できるようなことになれば、それが一つのまちおこしじゃないけれども、築上町はこういうことをやっているんだというのを、町としてはいいほうにもつながると思うんですね。

それこそ、ちっちゃな町にインター3つあるし、北九州空港も30分もあれば行けますし、何かインターがあるメリット、土地もいっぱいあるし、何かそれを子供たちのためにあり、さらに中高一貫校つくることが町の方針にもつながり、都会の人が築上町に仕事が増えるとか可能性を秘めて、この企画はいいんじゃないかなと感じます。

そういうことがあれば、実際自分の子供は今、外には出ているんですけど、もう自分の子供は大きくなりましたけど、孫とか持ったときに、皆さん同じだと思うんですけど、あ、うちの町がこんなに変わってよくなってきたら、孫たちがここで暮らしやすくなるかもしれないとか、町民自体の考え方も少しは変わってくるような気がします。

なので、教育だけの交流だけじゃなくて、まちおこしの一つにもなりそうな期待もあります。そんな感じです。

○町長（新川 久三君） 町の政策もね、人を増やそうとしてもなかなか増えないというのはね。

○委員（折本 美佐子君） そうですね。

○町長（新川 久三君） しかし、この新型コロナのコロナ禍の中で、皆さんの考えが田園回帰という考え方が少し芽生えてきておるし、その受け皿づくりをやっぴりちゃんとやらなきゃいかんかと。

例えば漁業を（シュコウ）すると漁業のほうにちょっとお願いして、いつでも自由参加できる

よとか、農業も一応これ都会から来た人に農地を貸し出します、そして買う方はどんどん買って下さいという、そういう一つの案づくりをやっていかなきゃ、ちゃんとした形で。今まで企業誘致やっているけど、なかなか企業も来るもんじゃない。しかしコロナは、この企業こっち来てもいいよと出るかも分らんけどね。東京にいらなくても仕事ができるんだと、それがこのコロナ禍の中で、皆さんちょっと経験できたんじゃないかなと思うので、土地の安い地域への新築というのが一つできてくれればありがたいかな。

もう誰もかれもが東京一極集中だったのが、これは地方分散という一つのきっかけになればね。僕らが子供のときには、()の子供以上に育ちが徹底しとったんですけども、いつの間にか一極集中。九州でも福岡でも福岡一極集中という、この辺でも行橋が一極集中という形になってきておるといのが、どうしても中心がどっかあって、それを取り巻く周囲があるというような形になって。周囲のほうはどうしても寂れていくという状況と聞いておる。

これは逆の発想でね、一応何とか業種のほうが流入するようなものをつくってあげればいいんじゃないかなと思っているんで、それはそれで総務課長、ちゃんと頑張りますので。そういうことです。

あと何かいいですか。

○教育長(久保ひろみ君) 先ほどの、これについてはこれから検討させていただくということで、町長のほうから、いわゆる子供たちが校区を見守る、校区の安全点検をしていくということを御紹介いただいて、教育委員会、校長会の中で紹介させていただきました。これまで非常に子供たちが、ずっと校区を知る、地元を知るとい、そのこともあるし、子供目線で危ないところを見ていくというようなところなので、またそういうものもコミュニティスクール、学校運営協議会の方と連携しながら一緒に通学路回るとかいうようなこともできるのかなということで、ちょっと町長のほうからそういうお話を今いただいて、ちょっと興味を持った学校運営協議会の会長さんがおられまして、私もいろいろ聞かれているところなので、ちょっとその辺をまたつめまして、決めていこうとは思っていますけど。

詳しくは資料が今、小林先生あれ、調べてくれてて。

○町長(新川 久三君) この前、創生会議で、教育長……

○教育長(久保ひろみ君) はいはい、それを全部コピーして。

○町長(新川 久三君) 漫画の本が出て。

○教育長(久保ひろみ君) あ、そうですか。

○町長(新川 久三君) これちょっと今日持つてくるの忘れた。

○教育長(久保ひろみ君) あ、いいです。今度また見せてください。

○町長(新川 久三君) それを全国に配ろうという何か創生会議の委員会で、その何か趣意書を

賛同してくれるという形で、ちょっとそのまま、今日忘れてきたけど、子供たちに全部1冊ずつ配ろうと。そういう漫画の本ができておるので、これをぜひ配布してくれということで、送ろうと思うんですけど。両方、次の教育委員会で代弁してください。

○教育長（久保ひろみ君） 実際には子供は入らないんですけど、今度は12月15日ですよ、課長。校区の安全点検。警察とそれから県土事務所と。

○学校教育課長（野正 修司君） そうですね、道路管理者が。

○教育長（久保ひろみ君） 全部集まってしてもらって。それはそれとしてやるんですけども、子供目線という協議だったんですね。

○町長（新川 久三君） 建設課長も入るん。

○学校教育課長（野正 修司君） 建設課長も入ります。

○町長（新川 久三君） 入るん。それを早く聞いて。

○教育長（久保ひろみ君） すいません、それを……

○町長（新川 久三君） いいやいいや、それも。

○学校教育課長（野正 修司君） 前からこれやっています。

○町長（新川 久三君） そういうことどんどんやってもらわないと、いいわで。やってもらわないと。

○教育長（久保ひろみ君） すいません。

○町長（新川 久三君） そういうことでいいですね。

じゃ、何かほかにその他ありますか。

○委員（折本 美佐子君） すいません、思ったことというか、イメージというか、去年、おとしだったと思うんですけど、女性教育委員の会が5月にあって、それが開催になったんですけど、それで私研修で行かせていただいたのが春日町だったんですけども。

そこで市長と役場の課長、市の課長さんずらっと市長と教育長とか一緒の中で、中学生たちが、市内の中学校がそこで質問を市長に投げかけたんですよ。それは経緯をずっと後の会で聞いたんですけど、すばらしかったんですね、子供たちの活躍ぶり。それと、本当課長さんたちが真面目に答えてくれているところは、もう本当にすごいなと思って、築上町もできそうな感じが。

○町長（新川 久三君） それもいいですよ、学校がいいなら。

○委員（折本 美佐子君） 何か、そういうような場合と。私がなぜそう思ったかと思うと、自分が子供だったとき全然町のこととかもう無関心だったし、行政とかも分からないし、明らかに春日の子供さんたち見たときに私たちはすごいと思って、こういうことが可能なら、ぜひ築上町でも何かちょっと聞きたい。

○町長（新川 久三君） そうですね。それはぜひこういうふうにやりたいという形になると、そ

ういうふうにしたいところだと思います。

○委員（折本 美佐子君） 今日、町長が講師として現地の学校でお話されたというのを聞いて、ふと思い出し、すいません。

○教育長（久保ひろみ君） 今、先ほど生涯学習と学校教育の件とか地域との連携という中で、私も次のあれとしては、例えば後ろに議員さんおられますけど、子ども議会とかですね、何かそういうものも社会科の学習と関連させてとか、模擬投票、生徒会の投票をそういうのにするとかいうところで、やっぱり社会とつながったような教育活動を行っていきたいので、またこの勉強のときには、例えば総務課、実際には総務課の方には椎田小学校が防災——何でしたっけ。

○総務課長（元島 信一君） 防災教育。

○教育長（久保ひろみ君） 防災教育の講師で総務課の方に来てもらうとか、何かいろんなことをしていますので、子供たちが地元、町のことを知るというのすごく大事なので、教育の年間指導計画の中にきちっと位置づけながら、やっぱり子供たちに歴史もそうだし。

○町長（新川 久三君） 観光教育でね、産業課の課長がいつも築上町の液肥の利用見たいと。それから循環型農業の取組を。最近ちょっとコロナが出て、どちらにしたのか。

○教育長（久保ひろみ君） ついこの間、何か。

○町長（新川 久三君） したの。

○教育長（久保ひろみ君） 西角田の子供たちが、でも。

○学校教育課長（野正 修司君） どうでしょう、ちょっと。

○町長（新川 久三君） それも一つの（ ）一応再開したほうがいいと思うし。

○町長（新川 久三君） そういうとにかく築上町のこと何でも知ってもらうちゅうのは一番いいかと思うし、そして誇れる面、そして子供たちがよそに行っても、自分の町こうだよと胸を張って言えるのは町に持ってもらいたいと思うしね。

子ども議会も今度は議場も新しくなるので、もしやるんならお願いします。この2人議員がおって。今度は議員さんに御一緒してもらわんにやいかん。逆に子ども議会のほう。もしやるなら議場借りてやりましょうと、はい。

○委員（折本 美佐子君） お願いします。あ、議場で。

○町長（新川 久三君） あ、議場で。それをお願い、議場で議会の感じにはなるんですね、議長に申し出て了解してほしいと。

○委員（折本 美佐子君） そういう体験を子供たちがしたら、面白いですね。伸びるといふか。

○町長（新川 久三君） 全ての子供ができないからね、代表になるけども。

○町長（新川 久三君） そうですね。

○委員（折本 美佐子君） 私が計画したのは、まず各学校で上がってきた議案を生徒会なり代表

者が持ち寄ってということですか。

○町長（新川 久三君） 全てがそういう議論になってくるような形で、交代交代でできれば一番いいんだけど、なかなかそうはいかんしね。

○委員（折本 美佐子君） そうですね。

○町長（新川 久三君） そのところをまた、教育長、学校のほうで集約してやるという話になるかという。

じゃ、そういうことで一応、僕の司会を終わっていいですか。

○学校教育課長（野正 修司君） もう、なければ。

○町長（新川 久三君） はい、お疲れさま。

○学校教育課長（野正 修司君） ありがとうございます。

それでは、いろいろ意見が出て、活発な意見交換できたと思います。

次回また2月ぐらいということによろしゅうございましょうか。何か年間3回ということのを以前言われて、2月の予定でいいですかね。

○町長（新川 久三君） お任せします。

○学校教育課長（野正 修司君） それじゃ、また調整してお願いいたします。

では、以上をもちまして、令和2年度第2回築上町総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

午後3時52分閉会
